

## ミニマル×マキシマル

所在地：沖縄県沖縄市

用途：長屋住宅

建築主：個人（夫婦）

設計監理：松田まり子建築設計事務所

施工：株式会社 沖秀建設

給排水工事：株式会社 設備技研

電気工事：株式会社 セイリング

キッチン：株式会社 昭和厨房

左官：隆左官店

構造規模：RC造2階建

敷地面積：150.7㎡

建築面積：79.48㎡

延床面積：1階56.86㎡ 1LDK（賃貸）

2階71.38㎡ オーナー住居

合計128.24㎡

竣工：2024年3月

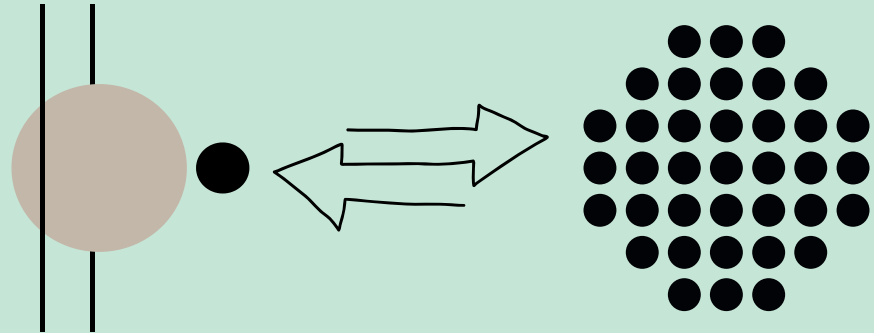
設計期間：2021年11月～2023年3月

施工期間：2023年3月～2024年3月

写真：（※）石井紀久



## ミニマルな住まいをマキシマルに暮らす



ミニマルな暮らし  
本当に必要なものを選び、余白を楽しむ

マキシマルな暮らし  
好きなものや体験を豊かに楽しむ

「ミニマル」と「マキシマル」の両立は、一見矛盾するようでいて、実は暮らしの質を高めるバランスの取れた考え方です。

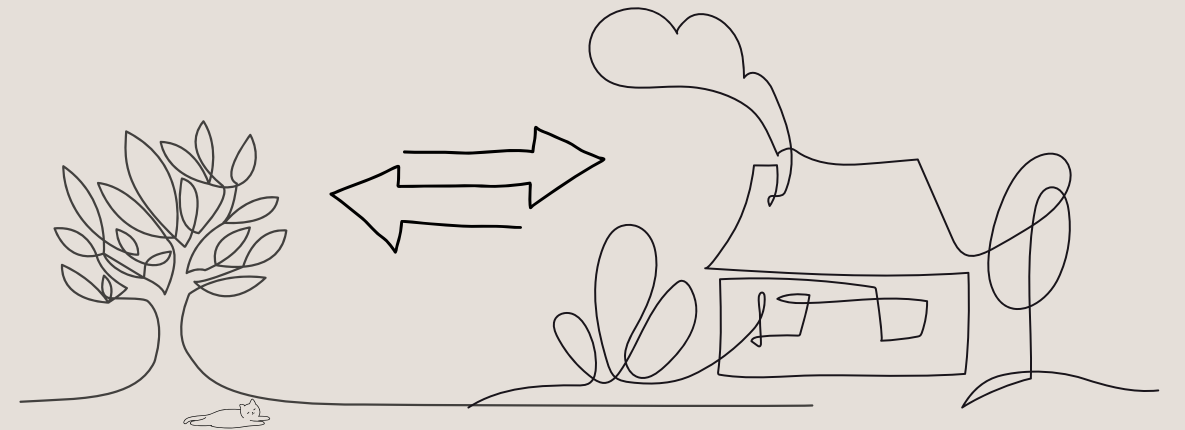
必要なものを選び余白を楽しむミニマルな暮らしと、好きなものや体験を豊かに楽しむマキシマルな暮らし。一見対極する二つを、この住まいは両立させています。

シンプルな外観は街並みに穏やかに溶け込み、プライバシーを確保しつつ開放感を演出。内部は温かみある素材や光が満ち、家族や友人との時間を豊かに楽しめる空間です。

余白があるからこそ選び抜いたモノや時間が際立ち、自分らしい暮らしが実現します。

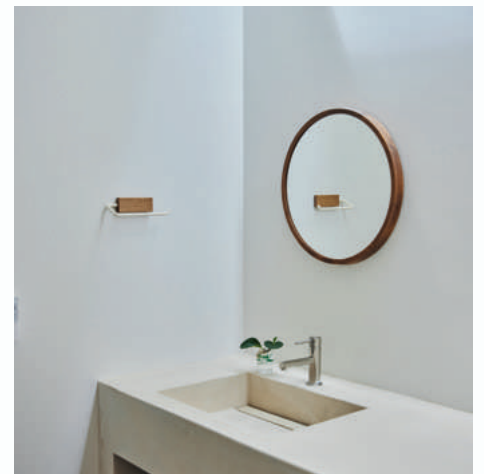
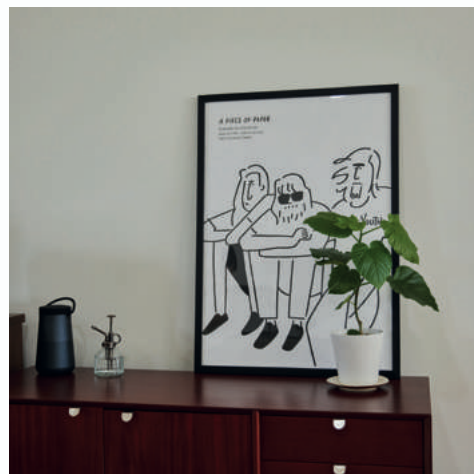
外は静けさ、内は充実。暮らしの質を高める、相反する価値観の心地よいバランスがここにあります。

## 自然の風と光と共に快適に暮らす



「気候風土適応住宅」は開放された自然志向、「ZEH」は閉鎖された高性能設備志向と対極性があるものとされますが、このお住まいでは両方の性質を持ち合わせることで、閉じたり開けたりできる住まい方が可能です。

この住まいは、自然を感じる心地よさとゼロエネルギーハウス（ZEH）の省エネ性能を両立させています。風や光を取り込む窓配置や緩衝空間、自然光を取り入れ、室内でも四季の移ろいや自然の恵みを感じられる設計です。一方で、高日射遮蔽・高気密仕様により冷暖房負荷を抑え、太陽光発電や省エネ設備を採用することで、年間のエネルギー消費を実質ゼロにしています。自然の力を活かす設計と先進技術の融合により、エネルギー負荷を最小限に抑えつつ快適な空間を実現。自然とのつながりを大切にしながら、持続可能な暮らしを実感できる住まいです。



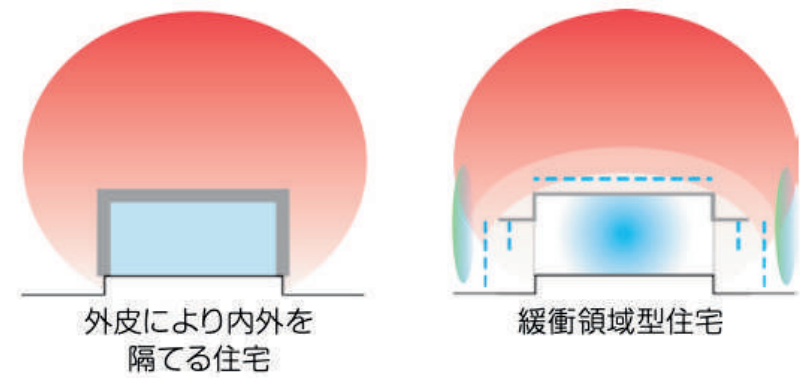


# 沖縄の気候風土適応住宅の考え方を取り入れる

沖縄県の気候風土適応住宅（緩衝領域型住宅）は、中と外を外皮によって分けて考える建築物省エネ法の考えとは異なり、緩衝領域型と言って外部まで緩やかにつながる空間を評価しています。つまりこの気候風土適応住宅は、伝統的木造でもRC造でも関係なく、**空間そのものを評価**しています。この評価方法は、世界の蒸暑地域のみではなく、様々な気候に対しても環境アクションを起こすきっかけになり得ると考えます。空間を中と外で完全に仕切って安定した温熱環境のみが評価されるのではなく、家の中で緩やかに変化していく環境が、実は地球の生物にとって、より生き抜いていく長寿命化を促すものとして再認識し始めています。

▪ 緩衝領域型住宅とは ▪

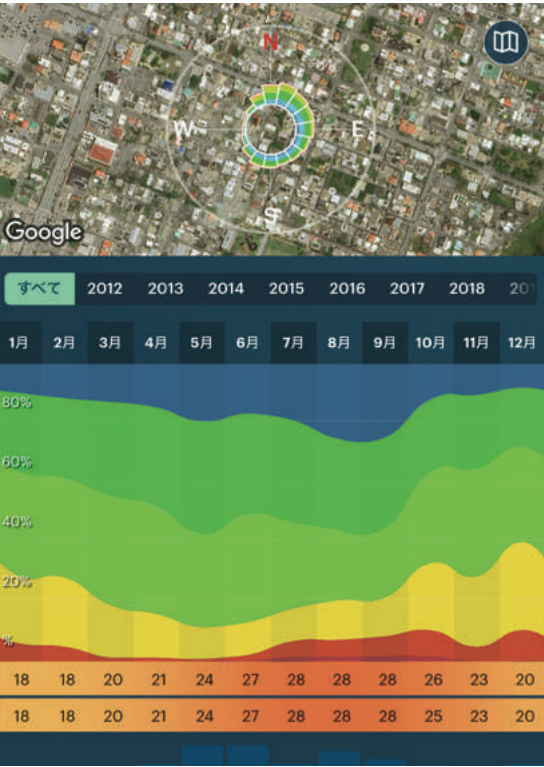
建築物省エネ法では、外からの熱を**侵入させない**、室内の熱を**逃さない**考え方ですが、沖縄の気候風土適応住宅（緩衝領域型住宅）では、外からの熱を室内に熱を**侵入させない**と、同時に熱や湿気を**こもらせずに逃す**手法が評価されています。



「沖縄の気候風土適応住宅ガイドライン」より



この敷地は沖縄市泡瀬に位置しており、海にほど近い住宅街に存在しています。敷地は東西に細長く伸びる形状となっています。東西に長いと通常、日射量が増える傾向にありますが、両側を住宅に囲まれているため、東西面に当たる日射は遮られています。さらに前面道路と背面道路には、風が流れていることが分かり、その風が取り込みやすいようなプランにしました。



風向図と風速の割合  
6～9月は冷房利用を想定



前面道路に風が流れる地域



風の通り道に花ブロックや開口部を設ける



日射熱が当たるところに通風窓湿気を逃す



敷地裏の緑道からは視線は遮りながらも風は通す



①

玄関あけたら、外の空間。  
テラスも家の中の感覚で暮らす。

②

湿気がこもりそうな場所には、自然光を取り込む。光と熱によってカビの発生を抑える。

③

浴室の湿気を誘い込むためにテラスの一部にトップライト。熱があるところに流れていく。またその形状に合わせて浴室内に自然光と気流を促す。

④

クローゼットには、外気を取り込まずに光と熱を入れる。寝室にはエアコンを設置せずにあえてクローゼットにエアコンを設置して温湿度管理できるようにする。

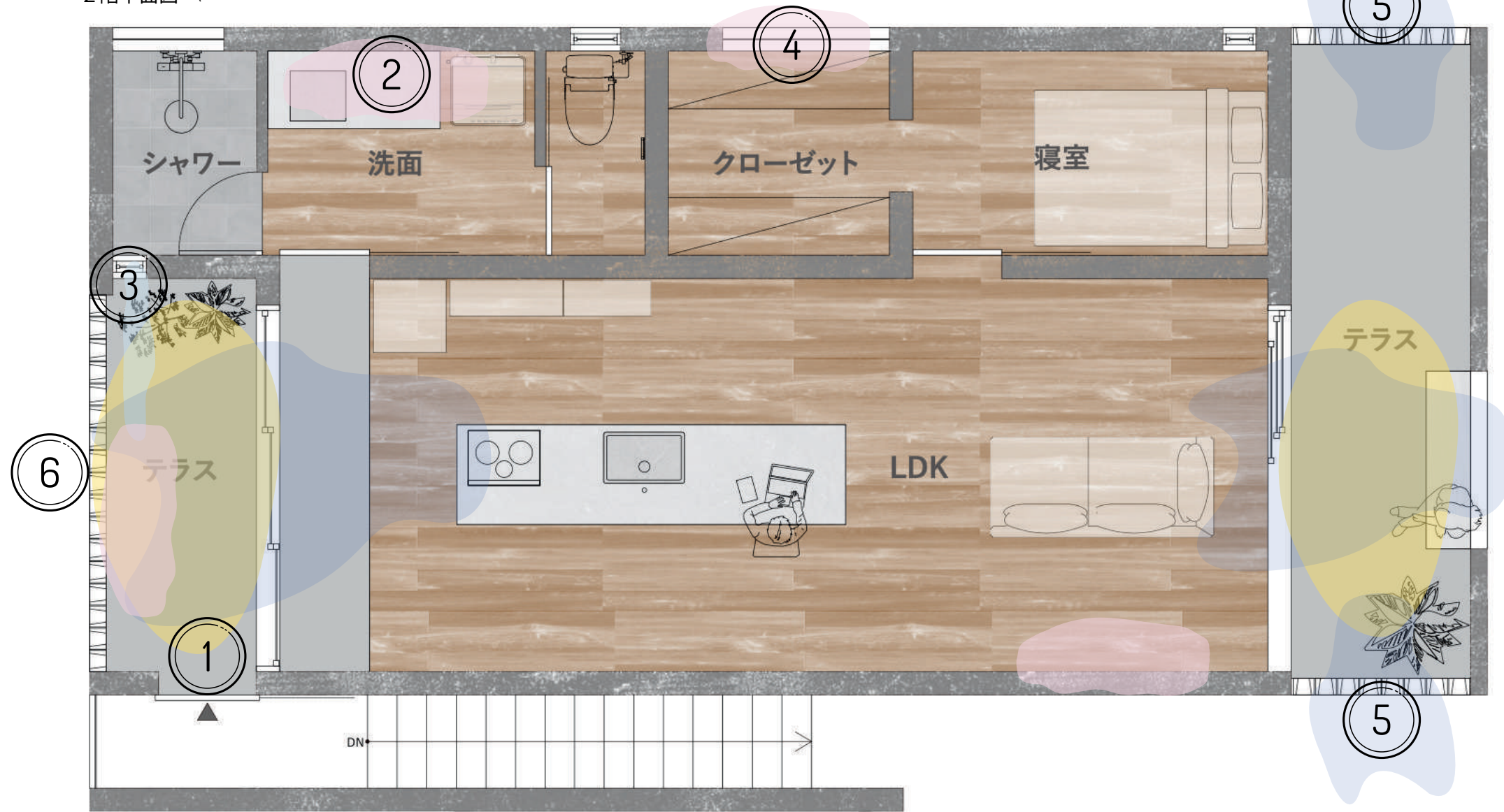
⑤

前面道路に流れている風を通りぬける道を作る。外にいながら室内にいる感覚で暮らす。

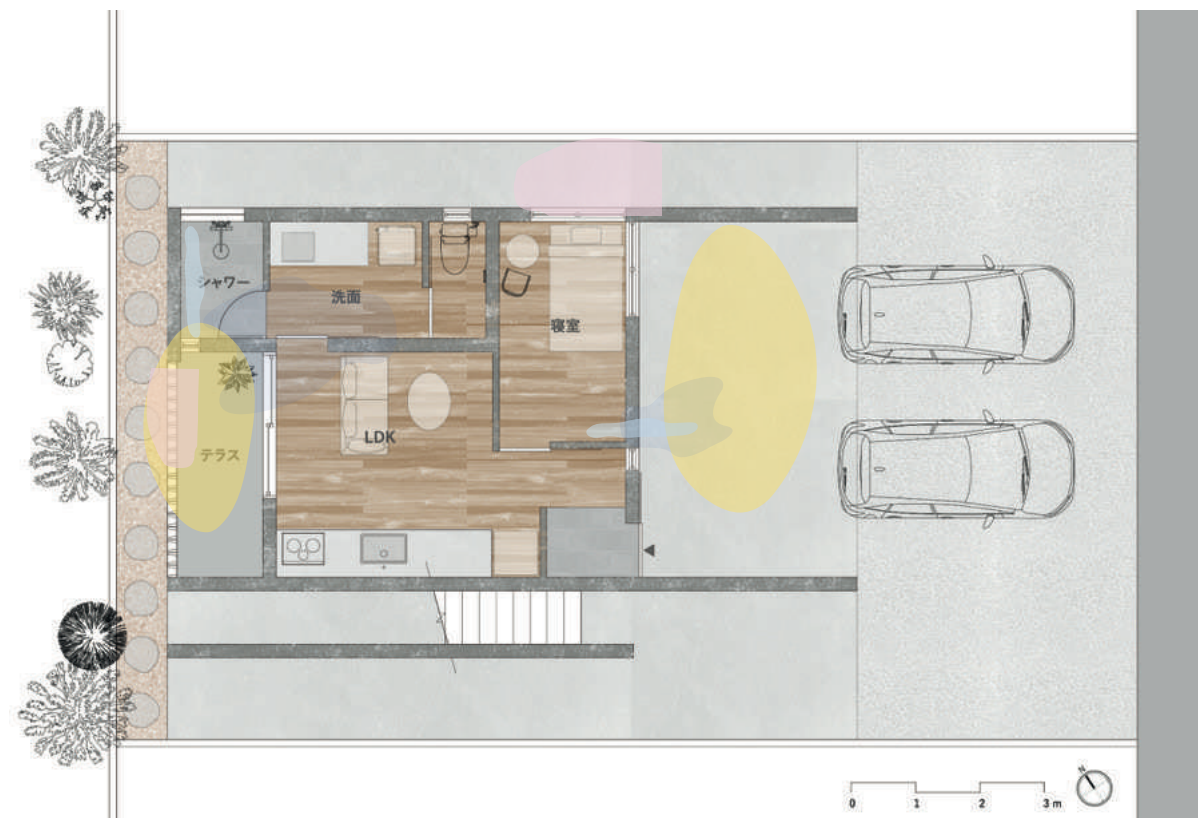
⑥

敷地の裏の緑道からは視線を遮りながらも風は取り込める。

2階平面図 (オーナー住居部)



配置図兼1階平面図 1階(賃貸可能1LDK)



0 1 2 3 m



光を入れる

風を入れる

緩衝空間

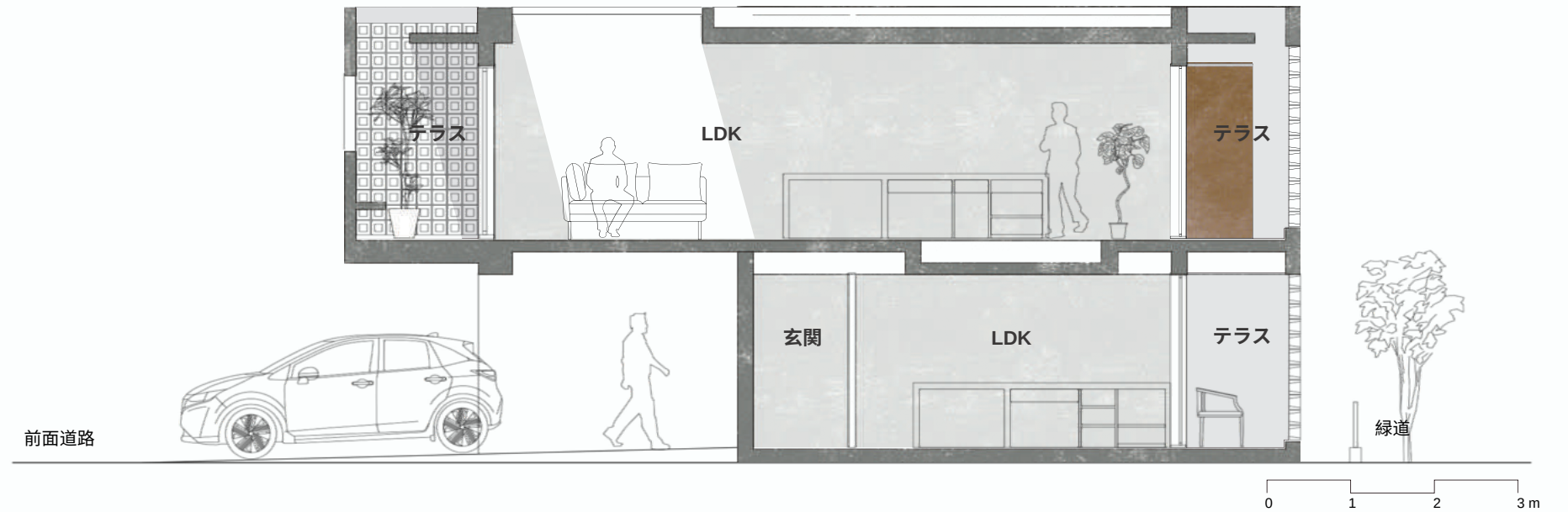
湿気と熱を出す





道路面からはフレンドリーな外観。来訪者とのコミュニケーションも図れる。

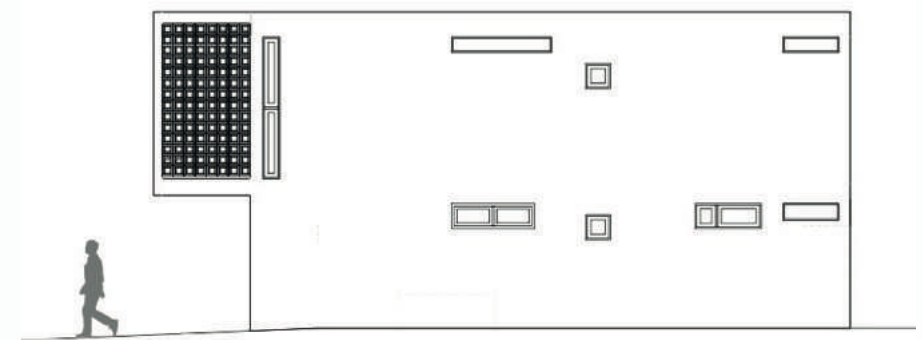
断面図



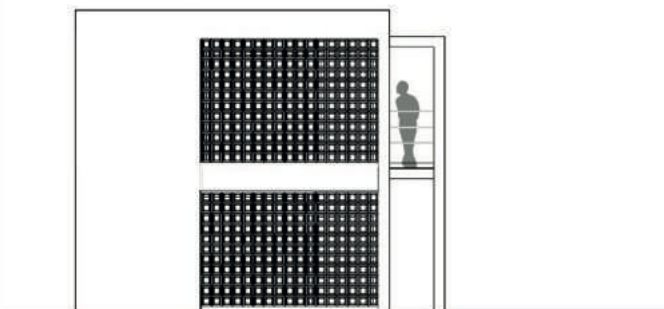
立面図



南東面



北東面



北西面

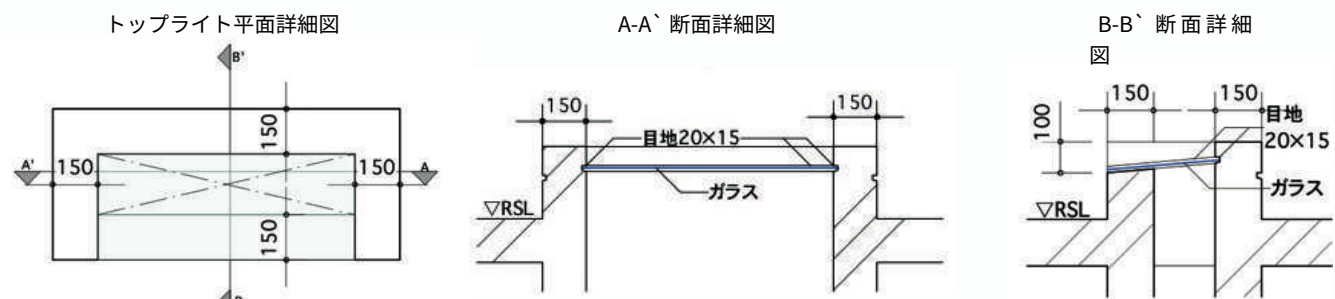


南西面



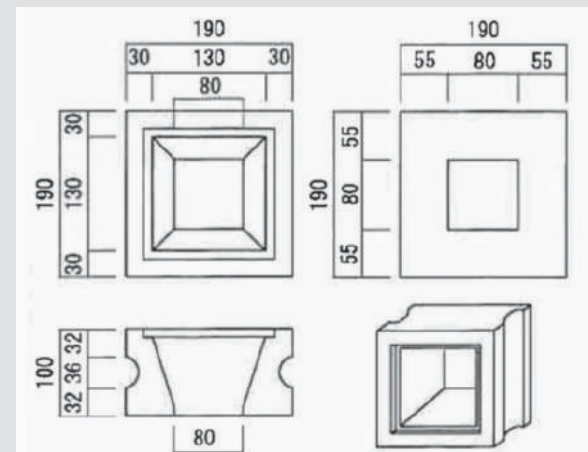
※  
テラスのベンチに腰かけるとプライベートな空間になる。





トップライトのガラス自体が躯体の目地に差し込んである形状で、ガラス自体にも勾配をつけている。たとえ目地のシーリングが劣化しても雨は侵入してこない形状となっている。

花ブロック



今回設置した花ブロックは、開口部にテーパがついており、室内からと外からの見え方が異なる

花ブロック 施工中写真



そのままだと耐震性が小さい花ブロックには、丸鋼をはさみながら、壁に縦方向と横方向に緊結してつなげていく





太陽光パネル(7.5kW)搭載 蓄電池も5.6kWh設置。



日中は照明が要らない室内



トンネル効果で風の抜けるアプローチ

## 沖縄型のZEH（ゼロエネルギーハウス）とは

沖縄の住まいで使用されるエネルギーは、冷房エネルギー、照明エネルギー、給湯エネルギーの3つが大きく占めています。

冷房エネルギーを削減することだけに注力すると、照明エネルギーやさらに深刻な湿気の問題に対して課題が残ります。日射遮蔽だけでなく、日射取得ができるような設計手法も大切です。

このお住まいは気密性を有し、日射遮蔽対策も充分にしており、さらに自然の恵みである再生エネルギー設備を導入しています。小さく作ることで、少ないエネルギーでゼロエネルギーハウスの基準も容易に満たすことができました。

昨今、建築費高騰で住宅のほかに再生エネルギーを導入するのが経済的に困難になっていますが、今回電力会社が行っている「リース」型の再生エネルギー設置を採用することで、太陽光パネルだけでなく、停電時に役に立つ蓄電池も初期投資ゼロで、設置することができました。







施主の1番のお気に入り、左官職人にオリジナルオーダーをして制作してもらったキッチンと洗面台だそうです。陶器のような滑らかさと世界に一つしかない手仕事の技が光っています。

また、花ブロックで囲われたテラスは、柔らかい光が差し込み風が通り抜けて気持ち良く、冷房の使用頻度は下がり、日中照明をつけることが少なくなったとの声をいただきました。







一見シンプルで、どこにでもありそうな四角な白い建物ですが、記号的な開口との組み合わせで、どこにもない個性を持っています。

ミニマルな形状は、周囲の街並みや環境に馴染みやすく、意図がシンプルに伝わる性質をも兼ね備えています。

なるべく無駄なものを省き、コンパクトな住まいと時代に左右されない住まいを持つことで、余白を増やし、多くの可能性や要素を取り込むことが可能になりました。美しく快適な時間が過ごせるような永く愛されるお住まいになることを目指しました。







## 静と動、自然と技術が融合する、これからの住まい

この住まいは、ミニマルな余白とマキシマルな豊かさを両立させる、新しい暮らしの提案です。必要なものを選び抜き、空間に余白を持たせることで、モノや時間の価値が際立ち、暮らしの質が高まります。シンプルな外観は街並みに溶け込みながらも、どこか个性的で、プライバシーを確保しつつも開放感を生み出し、内部は温かみのある素材や光が満ちた心地よい空間になっています。

余白があるからこそ、自分らしい暮らしが引き立つのです。静けさと充実感のバランスが取れた住まいが、ここにあります。

さらに、この住まいは沖縄の気候風土適応住宅基準に適合しながらも、ゼロエネルギーハウス（ZEH）の性能を備えています。風や光を活かす設計を取り入れ、四季の移ろいを感じさせる一方、高日射遮蔽・高気密仕様により快適さを維持。太陽光発電や省エネ設備を採用し、エネルギー消費を最小限に抑えながら、持続可能な暮らしを実現します。

これからの住まいは、単なる「住む場所」ではなく、環境と共生し、エネルギーを自給自足し、災害時にも対応できるレジリエントな住まいへと発展していきます。

人と自然、技術が融合し、快適さと持続可能性を兼ね備えたもの。静と動、シンプルと豊かさ、自然と最新技術が共存するこの住まいは、どこか新しく、どこか普遍的に、沖縄の未来に繋がっていくことを願っています。